

目的 私共は数年、ラットに茶類浸出液 (ウーロン茶・普洱茶・紅茶・煎茶・番茶・宝命茶) を、人が喫飲する濃度で給与し、血清コレステロール並びに中性脂肪の消長について追究を行ってきた。その結果、脂質代謝を促進する効果の認められるものがウーロン茶の中から見出され本学会でも報告した。今回は茶葉浸出液の長期間給与の観察を試みることにし、4種のお茶についての実験を計画した。

方法 wistar系ラット (♂) を用い、2週間の予備飼育終了後5群 (1群10匹) に分けて条件負荷飼育に移行し (10週令、体重約240g)、現在44週まで観察を継続中である。飼料は基本飼料 (船橋農場, F2)、飲水は水道水群と茶葉浸出液4群であり、これらはいずれも自由摂取である。実験に用いた茶葉は、ウーロン茶2種と普洱茶及び紅茶であり、茶葉浸出液の調整は、茶葉2.5gを熱湯240mlで4分間浸出したものである。測定項目は、血清総コレステロール (Tcho)、中性脂肪 (TG)、高比重リポ蛋白 (HDL-cho)、リン脂質 (PL)、収縮期血圧であり、採血及び血圧測定は、予備飼育終了時と条件負荷飼育3ヶ月、6ヶ月後に行った。なお、学会当日までには9ヶ月後の結果も報告出来ると思われる。体重並びに飼料摂取量、飲水量の検討も行った。

結果 条件負荷3ヶ月後におけるTchoの増加率は、対照時 (100%) に比して120~130%、6ヶ月後は140~160%であり、5群間に差は若干みられたが有意差は認められなかった。また、TG、HDL-cho、PL、収縮期血圧、体重変化も各群間に特に認められるものはなかった。